

令和6年(2024年)1月10日

西宮市議会議長 山田 ますと 様

民生常任委員会

委員長 一色 風子

民生常任委員会施策研究テーマについて(報告)

本委員会では、令和5年6月30日開催の委員会において、「図書館について」を年間の施策研究テーマと定め、調査・研究をしまりましたので、御報告申し上げます。

1 図書館について

令和5年7月18日、令和5年7月31日、令和5年8月14日、令和5年9月14日、令和5年10月10日、令和5年11月6日、令和5年11月20日、令和5年12月12日、及び令和5年12月25日に委員会を開催し、市当局より、本市の現在の取り組み状況や課題等の説明を聴取するとともに、質疑、委員間協議等を行い、意見要望を伝えました。

管外視察としては、令和5年10月23日に大和市を訪れ、大和市文化創造拠点シリウスについて、令和5年10月24日に武蔵野市を訪れ、武蔵野プレイスについて、同日に国立国会図書館国際子ども図書館を訪れ、国際子ども図書館について、令和5年10月25日に安城市を訪れ、中心市街地拠点施設アンフォーレ(安城市図書情報館)について、令和5年10月31日に伊丹市を訪れ、伊丹市立図書館ことば蔵について調査を行いました。

管内視察としては、令和5年8月10日に北部図書館、中央図書館を訪れ、市内図書館について調査を行いました。

当該施策研究テーマに対する各委員の個別意見は別紙のとおりです。

以 上

施策研究テーマ

図書館について

提言書

民生常任委員会

(令和6年1月10日)

【はじめに】

新中央図書館がどのように進んでいくのかというようなことも含めて「図書館について」を施策研究テーマに設定した。

テーマが決まった頃にはすでに西宮市として、本庁舎周辺公共施設再整備構想において、現在の中央図書館（川添町：教育文化センター内）を阪神西宮駅北側エリアへ民間主導の開発事業の実施に合わせて、駅前立地を活かした知と交流の拠点施設として中央図書館の移転整備に向けた「西宮市立中央図書館移転整備基本構想及び基本計画」策定支援業務の事業者が公募型プロポーザルを実施し委託契約先が決定しているタイミングで既に動き出している中で、本来の図書館とは何かについて改めて考えるためにテーマ設定し視察も含めて研究を進めた。

新中央図書館再整備事業が西宮市の中で突然持ちあがり、この機会を使い新しくできる図書館にとどまらず現在ある市内の図書館についても合わせて考えたいという思いで今回の施策研究に取り組んだ。また、社会教育部門が生涯学習として教育委員会から産業文化局に移管したことで私自身は市長事務部局に社会教育が包含されることに強い抵抗感があったがそのことを逆手にとり生涯学習としての図書館という立ち位置を市民のための図書館という視点で考えている。

「知の交流拠点」というキーワードは人によりそれぞれイメージするものが違ってくるように思う。私の中では「交流」と聞くと「市民の交流」「行政と市民の交流」人と人が交わり新たなものを生み出していくということを思い浮かべた。それは、これからの西宮市のまちを考えた時に人の繋がりがあり、その中から市民の力で主体的になって自分たちがこの西宮市をつくっていくということを人任せにしないで関りができるようなものであってほしいという願いがあったからである。

西宮市に子どもの頃から住み続け、そして子どもを持ち、町の中での中堅になった私の世代がどのように「文教住宅都市宣言」をした西宮市の先輩方の思いを繋ぎ関わられるのかも合わせて想像した。

また、図書館という「社会教育施設」という考えは古いと思われるかもしれないがそのような公共施設が広く市民が行きたくなるみんなのための、市民のための図書館になり、用事がなくてもそこに行くことで新しい情報、知らなかった知識を得ることができる「本」に出会い「本」を通して世界を広げていくことができる、そのような場所になってほしいということも考え、大きくはその2点の視点をもって提言に取り組んだ。また、この施策研究を進めている間にも市の財政状況については「財政構造改善計画」を早急に出していかなければならないという事態もありそのことも頭に置きながら提言を進めた。

【目指すべき図書館像】

目指すべき図書館像としては市民同士の繋がりを作りつつ年齢や用途に合わせた集える拠点になること。何もなくても図書館に足を運び「本」に出会い、サードプレイスとして市民の仕事場、リビングになり得るそのような行きたくなる場所になること。(何かの合間にスマホを見るのではなく本で息抜きができることをイメージしている) そしてもともと図書館が持っている資料などの資源の有効活用や司書という専門性のある人たちの知識を市民に広げることなど今あるポテンシャルをもっと市民に有効利用してもらえるようできる。さらに、西宮市の文化、芸術、歴史、産業など南北にも広がる地形を持つ西宮らしさを市民が知ることができ、さらに愛着をもってもらえる場所になることを求めたい。

【目指すべき図書館のために必要なこと】

利便性と共に交流を促すような仕掛けやまちづくりに向けた市民の興味関心を引き出すために

新たに付加してほしい機能としては飲食スペースやソファ席を設置すること、またすべての図書館において開館時間を延長し働く人や学生にとっても利用しやすい滞在型図書館にする。そして、ミーティングスペースを図書館内に設置し市民や市民活動の交流がしやすいス

ペースを持てるようにし、市内の市民活動が見えるように情報を得ることができるような仕掛けをつくる。

今までの図書館としての利用もできるように静と動のスペースを区分し静かに過ごしたい利用者、おしゃべりしながら過ごしたい利用者のどちらのニーズにもこたえることができるようなレイアウト変換をする。

レファレンス機能を市民の方に知ってもらえるように各学校園と連携しレファレンス利用のニーズを高めることができる仕組みを教育委員会と産業文化局が共につくるようにする。Wi-Fi を使えるようにするなど、学習ニーズなど市民の利便性にも応えることができるようにする。

図書館内での新たなサービス（カフェや子育て支援、ユース支援など）を整備しその担い手は市内の既存事業者が優先的に入ることができるような仕組みにする。そのことで、市内で活動する事業者を知ってもらうことや西宮市のこども子育てや産業に関する考えを知ってもらう場にもしていく。

公民館の書棚を図書館の本が置けるようにする。駅前に設置しているロッカータイプのもので費用比較し予約本の受け渡しを公民館でできるようにすることで公民館に足を運んでもらうように誘導し地域情報を得ることができ、地域の拠点となる公民館の活性化に繋げていく工夫のひとつにする。

現在ある基幹図書館にそれぞれ役割を特化して持たせる。例えば、北口図書館であれば子ども、若者に特化したもの（現在市として進めることができていないユース若者世代向けの場づくりや預かりもできる子育てひろば的な子育て支援など）にするなど1つの図書館に様々な機能を集中させるのではなくゆとりを持った形で用途に合わせて使い分けができるようにする。そのことで、新たな世代が図書館を拠点にしてまちづくりへの関心を持つきっかけとなる場を提供する。

生涯学習や市民協働などの視点で各方面が連携し市民交流センター、大学交流センターの機能を見直し図書館の一部に機能を集中させるなど図書館を拠点に市民同士のつながりを持たせる。図書館を利用する人が新たな市内での活動を知ることができるきっかけとなるようにする。

書庫に関しては書庫機能のありかたを資料収集や市民の利便性を最優先しつつ公文書館的な機能も複合することはできないか？と考える。また、駅前図書館での書庫機能のあり方は閉架図書や開架図書などの考えを整理し図書館スペースをどれだけ市民が使えるのかなど慎重に検討する必要がある。

市内大学との連携により市民の必要とする専門書などを大学図書館から市内分館を含めた図書館に取り寄せて借りることができる仕組みを構築し市民のための図書の充実をはかる。また西宮浜の事例のように市内の各学校図書室を地域に開放することでより本を身近に感じてもらい文教住宅都市らしい「本」を身近に感じることができるまちとする。障害の有無や性別、性的指向、人種などインクルーシブな視点を持ち市民主体の図書館となるために市民の声は常に反映できる仕組みを取り、グループインタビューなどの新たな声を聴きとる機会を今後も継続すること。

牧 みゆき 副委員長

【これからの西宮市にとっての図書館のあり方】

本を中心に様々な出会い、繋がりが生まれる場所

情報にも人にも出会える。図書館に行ったら面白そう。図書館でゆっくり考えよう。など、行ってみようと思えるような図書館を創り、幅広い年齢層、市内や近隣市内での広範囲な人との関わりがしやすい場所にする。

そうすることで地域の公民館とはまた別の交流、活動コミュニティーの形成が行えたりする地域のコミュニティーをより向上させるもの、また補完するような場所にでき、人材育成やまちづくりの観点からも大きな貢献を期待できる重要な役割を担う場所となると思う。

また文教住宅都市西宮の拠点施設として歴史、文化を感じさせる建築、または芸術性を感じる建物であることが望ましいと考える。

【実現化するために必要と思う機能や工夫】

長時間滞在ができる図書館を目指し、

- ・子どもの一時預かりや保育サービス
- ・カフェがあるなど飲食を可能にする
- ・落ち着いていられる場所と活発に交流する場所を分ける
- ・電子機器とネットワークが利用できるような環境整備
- ・簡単で気軽に会議ができる場所づくり
- ・生涯学習として連続講座が持てるような場所や企画
- ・市民が物販、展示ができる場所、ギャラリーがある

など、ゆっくりと仕事や交流、知的探訪ができるよう複合的な機能を持たせるのが良いと思う。

また施設の役割として、本の貸し借りやレファレンスなどの図書館機能、生涯学習の支援機能、青少年の活動支援機能、コミュニティー・市民活動支援機能が果たせると良いと思う。

また市内にある資料館やギャラリー施設との統合も視野に入れることを提案したい。

ありめ こうへい 委員

文化・芸術活動の中核としての役割：西宮市の図書館は、単に書籍を提供する場所を超え、市の文化や芸術活動の中心地として機能することを目指すこと。これには、展示会、ワークショップ、講演会、芸術イベントなど、多様な文化活動の開催が含まれます。

市民参加の重視：市民の意見やアイデアが図書館設計の根幹を成すとされています。市民参加型のアプローチにより、図書館のプログラムや施設設計に市民の声が反映され、利用者のニーズにより密接に対応したサービスが提供されること。

コミュニティーニーズへの対応：市民との連携を通じて、地域コミュニティーのニーズに合わせた図書館を構築する。例えば、地域特有の歴史や文化に関連する資料の充実を含むこと。

親しみやすく文化的価値の高い施設の構築：市民の積極的な関与により、図書館はより親しみやすい場所となり、文化的な価値も高められることが期待できます。図書館がコミュニティの集いの場としての役割も果たすことにより、市民の間での交流や学びの機会が増えること。

地域社会の重要な文化的拠点としての位置づけ：これらの取り組みにより、西宮市の図書館は、ただの書籍の貸出施設ではなく、地域社会における重要な文化的拠点としての地位を確立することが期待されます。これによって、市民の生活の質の向上に寄与し、市全体の文化レベルの向上にも繋がること。

河崎 はじめ 委員

- ① 本市の図書を保有する施設(学校図書を含む)の情報を一元管理できるようにすること。
- ② 本市に多い市外勤務者が利用しやすい開館時間等の配慮や貸出返却方法等のより一層の工夫、充実を図ること。
- ③ ②の達成の為に、民間の力の導入を検討すること。
- ④ 市内各施設等との統廃合を検討することで、公共施設の床面積の拡大を抑制し維持管理費の削減に努め、さらに、より利用者が集まり易い工夫をすること。
- ⑤ サイレントコーナーや飲食コーナー、西宮コーナー等、メリハリの付いた、利用者がリピーター化しやすい施設の工夫をすること。
- ⑥ 新中央図書館には愛称の公募やネーミングライツを検討すること。

佐野 ひろみ 委員

現在ある西宮市立図書館について、より利便性を高めるために、下記のような基本的な機能を充実させるべきと考える。

- ・自習室へのwifiの導入
- ・自習室の机一人2個ずつコンセントの設置
- ・施設の設備面でのバリアフリー化
- ・レファレンスをより身近に感じて頂くために、図書館司書によるレクチャーを開催する
- ・おしゃべりができるスペースの設置(宿題などができるよう配慮)
- ・情報へアクセスしやすいようにタッチパネルの操作性の向上

浜口 ひとし 委員

読書を通じて子どもから高齢者まで全ての世代が公平に学びを得られる環境は大切である。現在、中央図書館をはじめ、北部・鳴尾・北口の4施設と、越木岩・段上・上ヶ原・甲東・高須・山口・若竹の7支所が配置されている。一方でこれらの施設は今後更新時期を迎えることから、今後は各学校にある学校図書を地域の図書館として利用出来る仕組みを検討すべきである。

学校には既存の学校図書があり、少ない費用と一般開放によって支所的な機能を果たせる可能性がある。また各学校区での配置が可能となり、市民が今以上に本に触れ合い、手軽に利用できる環境が整う。また各学校図書に司書を配置することで、司書の知識を活かした読書への関心を高める提案型の企画を実施することも可能となる。さらに検索機能を充実させることで、中央図書館の本を手軽に取り寄せ・返却が可能となる。中央図書館は全ての市民が読書を楽しめる基幹的な役割として、仕組みを構築させることが重要だと考える。

計画では阪神西宮駅北側へ中央図書館の移転を計画している。現在の図書館は浜側に位置しており、津波による書物への影響を考えれば、財政状況を考慮しつつ移転への検討を進めることも必要だと考える。ただし移転に際して

- ・移転後1年以内に旧図書館跡地は売却を進めること
- ・新中央図書館は必要最低限の面積に留めること（開書は少なく、読書スペースや司書による企画ブースを大きく展開、書庫は最小限の整備にして保管用書庫を外部に設けること）
- ・新中央図書館の整備と並行に、市民利用の向上を踏まえた学校図書の連携・拡充・一般開放を進めること。さらに公共施設全体の適正配置を見直し、他の図書館や支所の整理を行うこと

などの検討を進めること。

委員会内で意見のあった施設集約について、その手法に反対するものではない。ただし阪神西宮駅近くの好立地に、郷土資料館や貝類館を移転することは費用対効果を望めないと考える。対案として、大谷美術館も含めた様々な文化施設を北部へ集約することも検討すべきと考える。

松山 かつのり 委員

図書館については、多様な市民がそれぞれに応じた時間の使い方ができる唯一の公共施設の場と考えます。

それ故にそれぞれの時間の使い方ができる空間の確保が重要と思うが、公共施設の性格上、確保できる空間には限りがあり、それについてはネットカフェなど、自分の趣味や時間に合わせた選択ができる施設に委ねることになると思います。

図書館を利用する人は、静かな空間で読書を楽しみたい人、仕事上調べ物をする人、学生などの勉学の場として利用する人、何より高価ともいえる絵本に多く触れさせてあげたいと願う保護者や児童の利用など、貴重な施設と言えます。

今回多くの図書館を視察させていただきましたが、(視察先の図書館についての感想は視察報告書に記載しましたのでご参照ください)

私が感じたことは、多くの方がそれぞれの目的をもって利用するには、空間の広さが(特に複数フロアー) 必要ということです。

また複数階のフロアーにすることにより、機能や役割が明確になり目的に応じた利用が可能となります。

現在の西宮市の多くの図書館は、ワンフロアーで存在しているため、多くの利用者に対応した運営にするためには限界があり、今回の施策研究テーマの議論でもありました、複合し

た施設運営や大学図書館などとの連携については、厳しいと感じています。

ただし、大学図書館との連携については、ICTなどを活用して是非とも実現してほしいと思います。

私は図書館については、年齢的な壁、性別的な壁、国籍的な壁などを超えて利用できる施設であるとともに、それ以上に交流の場としても利用価値を付帯させることも重要と考えます。

例えば、地域で行われている「西宮いきいき体操」などに、壮年の方の参加率が低いといわれていますが、考えられることは仕事をリタイヤした人が退職とともに地域に馴染むことが難しく（日常的に地域との関わりが薄いため）、結果的に孤独に陥ることが指摘されることがありますが、そのような方でも図書館などの利用についてはそれほど抵抗なく利用できると思います。

図書館が利用から参加する取り組みがあれば、交流の広場としての役割を担えるようになり、多くの市民のための施設になりうるものと考えます。

私自身図書館を利用したのが40歳代からで、実に勿体ないと感じています。

それは幼いことから図書館に触れ合う機会がなかったことで、できれば教育といった部分でも、幼いころから図書館に触れ合う機会を設けてほしいと思います。

最後に（仮称）西宮市中央図書館について触れますが、予定地としては利便性は抜群で、この利便性を活かしてほしいと思います。

特に観光案内所も近くにあることから、多くの方に西宮市の魅力の発信拠点、全世代の方が利用しやすい空間の創設、大学図書館との連携ハブ拠点として、検討していただきたいことを希望するとともに、合わせて現在本市は公共施設の総量削減を目指す中で、財政的にも多くの課題を抱えています。

当然削減に向けての議論も同時に進めるべきであるし、その議論なしでは新たな公共施設建設には賛同しにくいことを申し上げておきます。

八木 米太郎 委員

1 はじめに

第5次西宮市総合計画後期基本計画では、本庁舎周辺公共施設再整備構想のうち、阪神西宮駅北地区の公民連携まちづくり事業として、中央図書館の整備が具体的な取組としてあげられている。元々は、「図書・情報館」として「新アミティホール」と連携した複合的施設として構想されていたものだが、事業規模の大きい新アミティホールは第6次西宮市総合計画後期の2034年以降に新本庁舎と併せて整備することに変更されたものである。

令和5年(2023年)11月8日には、阪神西宮駅北側エリアの再生についての民間事業者からの提案書が明らかにされた。公民連携と言いつつも、民間主導型、別の表現をすれば、おんぶにだっこ、あるいは「丸投げ」的な雰囲気漂っているが、それはさておき、今この時期に、本市の図書館のあり方について考えることはそれなりに意味があるかもしれない。

2 本市図書館のあるべき姿

このテーマ「現図書館についての課題や懸念していること」との問いかけに、「地域特性をどう生かすか。(例:文教住宅都市、環境学習都市など、〇〇のまち にふさわしい図書館)」だと回答した。

むろん、言葉で表せば、簡単で、理念としてはだれしも納得がいくところだが、では、具体的には、どうか、はそう簡単ではないと思う。

(1) 文教住宅都市にふさわしい図書館

卑近な例をあげると、第5次総の後期アクションプランには、「駅前立地を生かした文教住宅都市にふさわしい「知と交流の拠点」を目指し整備に取り組む」とある。また、これに呼応するかの如く、先述の提案書も同様である。その表題は『「文教住宅都市」西宮の新たな玄関口～公・民共創による文教住宅都市のゲートウェイを目指して～』であり、文教住宅都市西宮の新たなシンボルとして、公民複合施設（多世代が集うサードプレイス：駅直結の利便性を活かし、従来の図書館の概念にとらわれず、多世代の人々が気軽に訪れ、知識を深め、趣味を楽しめる新たな「サードプレイス」）の一つとして新中央図書館が提案されている。提案書全体にわたって、「文教住宅都市」との文字がちりばめられており、文面を輝かせる宝石の役割を果たしている。

今回の管外視察では、大和市文化創造拠点シリウス、武蔵野プレイス、アンフォーレ（安城市図書館情報館）など、先駆的と言われる図書館を見せていただいたが、提案された図書館は、果たして「文教住宅都市」にふさわしい何かがあるのかどうか、先進地のものとどこがどう違うのか、まだ詳細が明らかにされてない段階なので、断言はできないが、甚だ疑問であることは間違いない。

本市の図書館のあり方として、文教住宅都市にふさわしいあり方というなら、多少乱暴な議論となるが、私はやはり、具体的には①大学図書館との連携強化 ②学校図書室との一体化 を目指すべきだと思う。若者の極端な文字離れに伴い、大学図書館はどんどん電子化が進んでいるといわれているが、それでもなお、専門書はもとより、その蔵書の多様さは垂涎に値する。大学図書館との連携強化と一口に言っても、さまざまなことが想定されるが、自治体の図書館は幅広くすべての領域の図書を揃えるのではなく、市民が求める領域・図書に絞って取扱い、それ以外は大学図書館を利用できるように、一定の助成金でもって、大学図書館に頼るというのも一つだろう。

学校図書室は学校の施設であり、教育委員会の管轄が当然の如く取り扱われている。むろん、教育課程の一貫として図書室を活用することは教育委員会の範疇であるが、果たして、その管理は、教育委員会（学校）であっていいのか、甚だ疑問である。生涯学習が教育委員会から離れて市長部局の管轄となり、公民館も、文化財も、スポーツも、すべて産業文化局に移管されたことを思えば学校図書館も、産業文化局の生涯学習部の管轄とすべきである。学校図書室は主に児童図書を中心に所蔵し、市民にも開放するようにすべきである。学校体育館が児童・生徒だけでなく、市民（地域）にも開放されているのと同様の扱いである。対象者が限定された公共施設では、今後益々少子高齢化が進む中、地域との共用・共生の仕方をいかに取り扱うかが、これからのカギになると思う。

読書振興課に「子供読書活動推進チーム」と銘打ったチームがありながら、学校図書室が管轄外とは、摩訶不思議である。

(2) 環境学習都市にふさわしい図書館

環境学習都市を支える施設としては、環境学習サポートセンター（甲風園）、甲子園浜自然環境センター、甲山自然学習館などがある。これらは、環境局の環境企画課の管轄と理解しているが、生涯学習を全庁を網羅する取組と位置づけているなら、産業文化局の生涯学習部の管轄として、情報館としての役割も濃いことから、図書事業との併合（複合化も含めて）も、検討すればどうか。

(3) ○○のまち にふさわしい図書館

本市は、何と言っても「酒のまち」である。当然のこととして、郷土(地域)関連図書や資料として、中央図書館では「酒」、北部図書館では「和紙」、山口分室では「竹」などの充実した特設資料コーナーがあつて然るべきである。しかしながら、残念なことに、充実とはほど遠い。また、都市ブランドとして、スイーツ等の食品をあげるならば、これらに関する資料の収集に注力し、コーナー化や期間限定展示なども企画すべきである。

「和紙」に関して言えば、西宮市立郷土資料館分館名塩和紙学習館では、市民から寄贈された貴重な資料が保存展示されているが、貸出等の制度が整備されていない。現在図書館で管理する歴史的な郷土史料とともに、それらの活用方法も含めた管理体制を早急に確立すべきである。

3 今 本市図書館でやるべきこと

暫し課題となっているのが、開館時間の延長である。本市では、北口図書館の平日が9時～20時、中央、北部、鳴尾が9時半から18時。但し、中央、鳴尾は4～9月の平日は19時までであるが、北口の土日祝は18時までである。賑わいの北口はその利便性から、土日祝も20時まで、せめて19時まで開館するよう早急に検討、実施すべきではないだろうか。

4 歴史を踏まえた複合化

本市の生涯学習の歴史は、やや乱暴なとらえ方だが、施設面から言えば、公民館と準公民館的な市民館での活動である。これら、市民による熱心な活動の歴史があり、また、他方、全市的には宮水学園のような活動もあり、安易に図書館（情報館）等を軸とした複合化は避けなければならないが、財政構造改善基本方針が示された今、施設総量の縮減も必須項目であることなどから、先述の自然環境センターなどとの複合化のほか、貝類館など、他の公共施設との統廃合についても鋭意検討すべきであろう。

【委員長所見】

各委員の提言はまとめられた通りである。

様々な意見があるがすべては市民のための施設として西宮市の図書館がどうあるべきなのかという視点をもって各委員が意見を出している。

そのことをもって本施策研究テーマの提言とする。

参考資料

意見募集結果

本施策研究テーマの提言をまとめるにあたり、委員会内での情報共有や考えをまとめるための意見募集結果を参考に添付する。

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●当局提供資料「図書館の概要」に関する質問

No.	委員名	質問
1	一色 委員長	学校図書への支援について具体的な内容と課題
2		中立で公平な選書はどのように担保しているのか？
3		図書館資料収集に関すること（基準や選書に関して）選定委員会で話し合われているのか？会議録的なものはあるのか？
4		ブックスタートのような単発の事業があったかと思うがその後どうなったのか？
5		多文化サービスの拡充とは？
6		障害のある子どもへの読書支援とは？
	牧 副委員長	—
7	ありめ 委員	予約図書受取ロッカーの利用状況はどうか。 当初の予想と比べてどうか。
8	河崎 委員	コロナでの図書館利用への影響と今後の見通しについて。
9		感染リスク軽減の為に着手した、図書館予約資料受取ロッカー導入事業の利用状況。
10		超高齢化時代が進む中での、図書館利用の促進策等の考えについて。
11	佐野 委員	図書館を「知のインフラ」と位置付けながら、読書振興課80名のうち、会計年度任用職員が54名を占める。67.5%が非正規。その理由は何か。
12	浜口 委員	13P登録者数、入館者数共にH29から比較して減少傾向であるが、原因は？
13		各図書館利用者の居住地について把握しているのか？
14		登録者数の年齢別は成人と児童の2区分しかないが、より詳細な年齢区分を示すことは可能か？（例えば5歳刻み等）
15	松山 委員	ボランティア活動について、選考方法など教えてください。
16	八木 委員	北部図書館の位置づけについて ア 統計上など、独立図書館として単独扱いされていることが多いが、機構・事務分掌事項として、「中央図書館」の管轄下になっているのは、なぜか（分室と同様の扱いになっている。）
17		北部図書館の窓口業務等の外部委託について ア 経緯 イ メリット、デメリットをどう認識しているのか ウ なぜ、北部図書館だけなのか
18		図書館の歩み 4頁に「令和2年(2020年)4月 中央図書館と北口図書館の事務の一部を読書振興課（新設）へ移管」とあるが、鳴尾図書館は、どうなったのか。
19		図書館業務の指定管理者制度について、どう考えているのか
20		図書館の歩み 統計資料 12頁 所蔵数、15頁 図書受入・除籍状況、31頁 リサイクル図書市民無料配布 区分として「成人図書」とあるが、「資料収集に関わる基準」によると成人図書」という区分はない。 表記内容から判断すると「児童図書」が「青少年図書」を含まないものと思われるので、そうであれば「一般図書」（正確には「青少年図書」を含む一般図書）とすべきではないか。

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●委員会（7/31）の協議を踏まえ、不明な点や当局への質問事項

No.	委員名	質問
1	一色 委員長	ICTの活用などどのようになっているのか？（現状と今後）
2		司書のスキルアップは現状各司書がおこなうとあったがそれぞれどのように司書としての資質を磨いているのか？
3		指定管理者制度について今後新しい図書館を整備するにあたって活用するようなことがある場合どのようなことを民間に期待するのか？
4	牧 副委員長	現図書館の課題や問題点があるとすれば何と考えられているのか、それはどのような方法で把握されているのでしょうか？
5	ありめ 委員	図書館の利用数が減っている理由は、コロナと人口減とおっしゃったと思いますが、本当に原因はそれだけでしょうか。
6	河崎 委員	図書館の利用者について 本を借りる人以外の集客についてどう考えるのか。
	佐野 委員	—
7	浜口 委員	新しい中央図書館のコンセプト、目指すべきカタチとは何か？（特にITをどう活用するのかを明確にすべき）
8		新しい図書館の規模を現時点でどのように考えているのか？目安とするものは何か？
9	松山 委員	図書館と分室の役割の違いがあるのか？
10		大学の図書館との連携についての考え方？
11	八木 委員	当日の委員会でも指摘したが、「図書館の概要」については、ずさんな表記が目につく。 （一般論で申し訳ありませんが）図書館だけではないが、何事にも、もう少し、気を引き締めて、取り組んでもらいたい。 質問に対して、文書による回答をお願いしたい。

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●現図書館についての課題や懸念していること

No.	委員名	課題
1	一色 委員長	司書機能と学校図書との連携
2		レファレンスやその他司書が活躍できる場について市の取り組み
3		広く多くの市民が利用する図書館のあり方について
	牧 副委員長	—
4	ありめ 委員	○図書館に行く意味と利用者の数 ・本の貸し出し・返却が目的になっていないか。 ・図書館に行かないと受けられないサービスやメリットがない 例えば、 小さな字を何か機械を使って大きく読みやすくしてくれる 本好きの仲間と話し合える機会、場所がある 小さいこどもがリラックスして本を読む場所がある
5	河崎 委員	口頭披瀝
6	佐野 委員	図書館の職員の67%が会計年度任用職員です。キャリア10年から20年の図書館司書も含まれます。処遇改善が必要だと考えます。
7	浜口 委員	利用実態（すべての図書館について、登録している方の住所）を把握する必要がある。
8		新刊の取り扱いについて、現状ルールの確認と今後の対応。
9		他市の図書館と連携して、図書館の広域化を図れないか。（図書館の広域連携によるメリット、デメリットを整理）
10		新しい中央図書館を軸に、市内の様々な図書館（分館や学校図書）全体で西宮市の図書環境を考えていくべき。
11	松山 委員	予約図書について、待ちが50人や100人を超える場合があるが、その対応について解消することも検討してはどうかと考える。
12	八木 委員	地域特性をどう生かすか。（例：文教住宅都市、環境学習都市など、〇〇のまちにふさわしい図書館）

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●委員会（8/14）の協議を踏まえ、不明な点や当局への質問事項

No.	委員名	質問
1	一色 委員長	新図書館に盛り込みたい思いはとても伝わるが、例えばそれは新図書館と共にその他の図書館で機能をすみ分けることは考えることはできるのか？（例えば、北口図書館は青少年、子どもに特化した図書館にするなど）また、他自治体であるような児童図書館はどのような位置づけなのかわかればお聞きしたい
	牧 副委員長	—
2	ありめ 委員	○取り組む課題を絞り込んだほうが良い。 どういう図書館がいいのか（にぎわいのある図書館orリラックスできるor交流が図れる） ターゲット：ファミリー・子供たち（幼児・小学校・中学校・高校）、高齢者、障がい者、ビジネス
3	河崎 委員	各図書館で開館時間に差があることについての理由。
4		各図書館の閉館時間延長についての考え方。
	佐野 委員	—
	浜口 委員	—
5		分室のバリアフリーの状況を教えてください。
6	松山 委員	利用率を向上させるためには、現在の年代別利用状況を把握したうえで、どの世代にターゲット絞り、施策を実行できるのかが重要なのではないか？
7		図書館についての課題など各種団体からの意見交換などはおこなっているのか？
8	八木 委員	<p>口頭でもすでに、若干意見を申し述べたが、「新図書館の整備について向けての課題」の2.子供の未来、街の未来への貢献の記述のなかで「現行図書館と同面積の限られたスペース」とあるが、公共施設マネジメントの面から市全体で施設面積を増やさないとの方針から言えば、納得せざるを得ないのかもしれないが、疑問が残るところである。</p> <p>新図書館整備の必然性は本当にあるのかどうか、原点に立ち返る疑問であるし、この表現から類推すれば、旧図書館は、少なくとも、関連施設として、再利用しないということになってしまうのではないか。</p>

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●現図書館についての課題や懸念していること

No.	委員名	課題
1	一色 委員長	司書機能と学校図書との連携
2		レファレンスやその他司書が活躍できる場について市の取り組み
3		広く多くの市民が利用する図書館のあり方について
4		新図書館が目指す図書館について現存の図書館はそれ以外の部分を担うのか？住み分けなどをこれから考えていく必要があるように感じる
5	牧 副委員長	増え続ける書籍や資料の保管先や保管にかかるコストの捻出、またデジタル化の推進に伴い、大量の本や資料の精査が必要であること。
6		スマートフォンやインターネットの普及により子供も大人も本離れが進んで常態化してしまっている中、本の持つ良さを感じてもらい、図書館という空間の価値を知ってもらい工夫を絶えず考える必要があること。
7	ありめ 委員	○図書館に行く意味と利用者の数 ・本の貸し出し・返却が目的になっていないか。 ・図書館に行かないと受けられないサービスやメリットがない 例えば、 小さな字を何か機械を使って大きく読みやすくしてくれる 本好きの仲間と話し合える機会、場所がある 小さいこどもがリラックして本を読む場所がある
8		くつろいで、本を読めるような環境が少なかった。
9	河崎 委員	新しい回遊型とか滞在型みたいなのが出てきているので、現図書館にもできるだけ広げていった方がいいのではないか
10	佐野 委員	図書館の職員の67%が会計年度任用職員です。キャリア10年から20年の図書館司書も含まれます。処遇改善が必要だと考えます。
11		多文化共生の観点から、英語だけでなく中国語・韓国語・ベトナム語の書籍を増やす
12	浜口 委員	利用実態（すべての図書館について、登録している方の住所）を把握する必要がある。
13		新刊の取り扱いについて、現状ルールの確認と今後の対応。
14		他市の図書館と連携して、図書館の広域化を図れないか。（図書館の広域連携によるメリット、デメリットを整理）
15		新しい中央図書館を軸に、市内の様々な図書館（分館や学校図書）全体で西宮市の図書環境を考えていくべき。
16		公共施設マネジメントの観点を重視し、施設総量が増えないよう取り組むこと（八木委員の意見に賛同）
17	松山 委員	予約図書について、待ちが50人や100人を超える場合があるが、その対応について解消することも検討してはどうかと考える。
18	八木 委員	地域特性をどう生かすか。（例：文教住宅都市、環境学習都市など、〇〇のまちにふさわしい図書館）

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●図書館情報（当局視察）のうち、当局や各施設について聞きたいこと

〔当局〕

No.	委員名	質問等
1	一色 委員長	視察された図書館の中で特に真似をしたいと思う図書館はどれか？
2	牧 副委員長	塩尻えんパーク 「㎡単位で床や壁を貸出す等、ユニークな施設運営」に関する部分がホームページからわからなかったのもう少し教えてほしい。
	ありめ 委員	—
	河崎 委員	—
3	佐野 委員	安城市図書情報館（アンフォーレ）のティーンズコーナーの先進的な取り組みの内容
4	浜口 委員	視察先を選んだ理由は？
5		視察を経て本市の図書館事業へ反映させたい内容は？
	松山 委員	—
6	八木 委員	「特色など」の記述で、視察の視点や観点は、理解できたが、結果はどうだったのか。 単なる感想でも、メモでも良いので、現時点での当局視察の結果を纏めたものがあれば、知りたい。

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●図書館情報（当局視察）のうち、当局や各施設について聞きたいこと

〔読書振興課視察先の図書館〕

No.	委員名	質問等
1	一色 委員長	全体へ 運営方式 職員配置（専門職、雇用形態など） 運営費 根拠条例 所管 その他の図書館の状況 図書館ができるまでの市民の関わり方（新しくできた図書館の場合） 新しい形の（図書館機能だけでなく、静寂がないなど）図書館に対する市民、利用者の声 魅力を発信するデザインや広報の工夫されていること
2		えんぱーく 生涯読書という考え方と寺子屋の発想を支える背景にあるもの
3		明石図書館 複合施設内の他の公共施設との連携事業
4		和歌山市民図書館 世代別、図書館を利用する理由別の住み分けについて
5		みんなの森 ぎふメディアコスモス 館長を公募したことで達成できた理念
6		豊橋市まちなか図書館 繋がりを生み出す手法としてソフト面で工夫されていること
7	牧 副委員長	ホームページがデザイン性があり見やすい。キャラクターは図書館のために作られたものなのか、作成者はどのように選んだのかなどホームページ作りについて聞きたい。
8	ありめ 委員	えんぱーく > Twitter、Facebook、インスタの反応と誰が都度更新を行っているのか。
9		武蔵野プレイス > 青少年の居場所作りに力を入れた理由
10		あかし市民図書館 > ①平日・土日の来館者数。②子育て施策とはどういった取り組みで、どういったサービスが喜ばれているのか。
11		和歌山市民図書館 > HPがとても見やすい。どこが作成しているのか。どういうところに気を付けているのか。
12		豊中市まちなか図書館 > 人をつなぐ取り組みで多様なイベントを実施しているとのことですが、いままでのどのようなイベントが人気があったか
13	安城市図書館情報館（アンフォーレ） > 飲食をできるようにしたことで、よかったことや課題。	
14	河崎 委員	視察先図書館において、営業（サービス）時間と指定管理等の関係や、その他、会計年度任用職員の利用等について感じるものがあれば教えて欲しい。
	佐野 委員	—
15	浜口 委員	本市の実情と比較が可能な情報の確認（別紙参照）
	松山 委員	—
	八木 委員	—

	図書館経費（総額）	人口	人口1人あたりの費用	入館者数	開館日数	蔵書数	登録者数	貸出冊数
西宮中央図書館	710744644	483537	1469.9	239912	288	414780	22722	567862
塩尻市立図書館								
武蔵野市立図書館								
あかし市民図書館								
和歌山市民図書館								
岐阜市立中央図書館								
豊橋市まちなか図書館								
安城市図書館情報館								

* 本市の情報は図書館の概要（令和3年度実績）を参照だが、可能であれば令和4年度を採用

* 上記図書館に加えて、視察予定の図書館も加える

* 他市の図書館情報について、すでに当局が情報を収集していると認識している

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●視察を終えて、当局へ聞きたいこと

No.	委員名	質問
1	一色	学校図書との連携についての現状
2	委員長	大学図書館との連携についての現状
3	牧 副委員長	当局として取り入れたいと思った機能（現図書館でも新図書館でも）、新図書館に必ず取り入れたいと思う機能
4	ありめ 委員	当局として、武蔵野プレイス、安城市図書情報館の視察を通して、西宮の図書館にほしい、もしくは必要とおもった仕組みや機能をお聞かせください。
	河崎 委員	—
5	佐野 委員	現在の中央図書館の移転がなぜ必要なか明確にして頂ければと思います。老朽化による移転と伺いましたが、専門家による調査をして補修費用の見積もり等をとったのかご教示ください。
	浜口 委員	—
	松山 委員	—
6	八木 委員	行財政改革に取り組むと発表され、影響は避けられないと思うが、新図書館計画はどうなるのか。

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●図書館に新たに付加すべき機能について現時点で考えられること

No.	委員名	意見
1	一色 委員長	市民の交流できる場や仕掛け（ミーティングができる個室やオープンな会議スペースなどを設置し市内の市民活動団体同士や市民が関わられるような情報コーナーの設置など）
2		くつろげる（滞留できる）場、空間作り（ソファ席や本を読みながら食事ができるコーナーなど）
3		学校図書館で中央図書館の本を借りることができる仕組み
4		若者こどもに特化したスペース
5	牧 副委員長	伊丹市のフロア会議のような市民が個々の創造性やチャレンジ意欲を発揮できる企画やスペース
6		図書館での生涯学習機能
7		学習室、作業スペースの拡充（PCが使えるような環境配備）
8		児童預かりサービスなど、小さな子どもを連れた来館者がゆっくり本を読んだり、親同士、子ども同士遊んだり交流できるようなスペースや取り組み
9		市民活動や学生のサークル活動などの会議が図書館で気軽に持てるようなスペース作り
10	ありめ 委員	講演、ワークショップ、アート展示、コミュニティイベントなどを通じて、地域の文化と交流を創出する場所であること。
11		幅広い年齢層の子供たちに対するサポートが必要
12	河崎 委員	1.西宮にゆかりの作家や、作品の舞台等が西宮になっている図書を集めた西宮コーナーを作ってはどうか。
13		2.可能な限り、既存施設の統廃合により、図書館を複合施設化してはどうか。（特に図書を持っている施設を統合することで、その一元管理が可能になると思う）
14		3.伊丹市のことば蔵の様な愛称等を公募してはどうか。
15	佐野 委員	自習室へwifiの導入
16		施設のバリアフリー化
17		住民がレファレンスを使いこなせるよう、図書館司書さんによるレクチャー
18		お喋りができるスペースの導入
19		小・中・高校生が宿題等をできるスペースの導入
20		情報へアクセスしやすいよう検索機能の向上
21		伊丹市ことば蔵のような市民のアイデアを実現させる市民企画イベント
22	浜口 委員	小さなスペースでたくさんの本が収納出来る書庫機能（費用対効果によっては人員による管理が不要なシステムを付与）
23		本を閲覧することが不要となるような検索システム（表紙画像掲載）
24	松山 委員	図書館機能以外の機能を持たせることにより、既存の施設の削減につながるのではないかと思います。
25	八木 委員	視察では、カフェなど市民がくつろげるスペースや充実した学習室など、プラスαのさまざまな機能・形態を見せていただいたが、すべて経費が伴うことなので、単純には議論・検討はできないように思う。

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

●図書館を合理化していく中で考えられること

No.	委員名	意見
1	一色 委員長	大学との連携（市民が専門書などを大学図書館で借りることができるなど）
2		大学交流センターや市民交流センターなどを図書館機能に付加していく
3		司書の業務を司書の資格があるからこそできる業務に特化して動けるようにするために図書館業務の整理とそのために必要なICT化の活用
4	牧 副委員長	図書館にギャラリー機能や生涯学習サービス機能を持たせることで、市内にある類似施設や開かれているイベント事業を集約できないだろうか。
5	ありめ 委員	自動化と技術導入:RFID技術や自動貸出返却機、自動仕分けシステムなどの導入により、業務プロセスを効率化が図れる。これによって、図書館スタッフはより価値ある業務に集中できると考えられます。
6	河崎 委員	市民サービスのより一層の向上には、指定管理制度の導入が不可欠と思う。
7	佐野 委員	アメリカの公共図書館では、困窮した方に食料の提供、医療情報の提供、行政サービスの情報提供、職業斡旋をするコーナーまで設けている図書館もある。それは、それまでの図書館制度が中流階級以上の白人中心の価値観によって運営されていたことに疑義が呈され、議論され、貸本屋以上の機能が加わり、変化が起きていった。 共働きも増え、子どもの6.5人に1人が貧困という社会で、放課後宿題もでき、軽食もあり、落ち着いて本を読めるスペースは、子育て支援にもなります。ご検討ください。
8	浜口	市内全ての図書館について、適正配置の見直し
9	委員	学校図書と新中央図書館の連携強化
10	松山 委員	ICTをフルに活用することにより、本当に必要な業務に重層的に配置できるもしくは、削減効果も見込めるのではないかと思います。
11	八木 委員	「図書館を合理化していく」とは、どういうことなのか、質問の意味が理解できません。

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

(1) 新中央図書館の整備をきっかけに、西宮市の図書館についてどのような図書館にするべきか

No.	委員名	意見
1	一色 委員長	<p>知の交流拠点として市民の交流、市民が行きたくなる、市民のための図書館 市民同士の繋がりを作ることができる 年齢や用途に合わせた集える拠点 何もなくても行きたくなる場所 図書館が持つ資源、ポテンシャルをもっと市民に有効利用してもらう 西宮市のことをもっと知ることができ、さらに愛着をもってもらえる</p>
2	牧 副委員長	<p>本の貸し借りや資料の検索以外に、生涯学習の場、市民の交流の場、児童・青年の居場所や育成の場など、本を中心としながら様々な目的をもった人が集まり、交流し、市民の知的好奇心や創作意欲がのびのびと発揮され、暮らしの活性化へとつながるような図書館。 時間ができたとき、新しいヒントがほしいとき、誰かと会ってみたい時、図書館に行ってみよう。と思えるような場所</p>
3	ありめ 委員	<p>新図書館の整備を契機に、西宮市は独自の課題解決とオリジナリティを兼ね備えた図書館を構築し、図書館は単なる情報提供の場にとどまらず、市の文化シーン（文化活動・芸術活動など）を豊かにする拠点にするべきだと考えます。 その上で、新図書館の方向性を決定していくべきだと考えます。</p>
4	河崎 委員	口頭披瀝
5	佐野 委員	<p>自習室へwifiの導入・自習室の机に1人2つずつコンセントの設置・施設の設備面でのバリアフリー化・レファレンスをより身近に感じて頂くため図書館司書さんによるレクチャー・お喋りができるスペースの導入・情報へアクセスしやすいようタッチパネルの操作性の向上など、基本的なインフラを整備して頂ければ、住民にとって使いやすくなると思います。</p>
6	浜口 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなスペースでたくさんの本が収納出来る書庫機能（費用対効果によっては人員による管理が不要なシステムを付与） ・本を閲覧することが不要となるような検索システム（表紙画像掲載）
7	松山 委員	<p>【仮称】西宮市総合中央図書館として子育て世代、青少年世代、中高年世代、高齢者世代が利用できる図書館になればよいと考える。それと同時に他の図書館の機能も見直し、満足度を高める取り組みも行ってほしい。</p>
8	八木 委員	<p>新中央図書館の整備をきっかけとあるが、整備を前提とした議論に安易に加わることは遠慮したい。 本市の図書館のあり方の一般論としては、文教住宅都市にふさわしいあり方を、具体的には大学図書館との連携強化や学校図書館との一体化、開館時間の延長（特に賑わいの中心地に立地した北口図書館だけは早急に検討、実施すべき）、さらには、貝類館や自然環境センターなどの複合化など、施設の統廃合についても鋭意検討すべきである。</p>

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

①（１）の実現に向けて、新たに付加すべき点（あれば）

No.	委員名	意見
1	一色 委員長	<p>飲食スペースやソファ席を設置し滞在型図書館にする</p> <p>ミーティングスペースを図書館内に多数設置し市民や市民活動の交流がしやすいスペースを持つ</p> <p>静と動のスペースを区分し静かに過ごしたい利用者、おしゃべりしながら過ごしたい利用者のどちらのニーズにもこたえることができるようにする</p> <p>レファレンス機能を市民の方に知ってもらえるように各学校園へアウトリーチしレファレンス利用のニーズを高めることができる仕組みをつくる</p> <p>Wi-Fiを使えるようにするなど、学習ニーズなどに応えることができる</p> <p>図書館内での新たなサービス（カフェや子育て支援、ユース支援など）に市内の既存事業者が優先的に入ることができるような仕組み</p> <p>公民館の書棚を図書館の本が置けるようにするまた、予約本の受け渡しを公民館でできるようにする（駅前に設置しているロッカータイプのもので費用比較などして）ことで公民館に足を運んでもらうように誘導する。</p>
2	牧 副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・学習室など区切られた個のスペースを確保しながらも、気持ちが向いたときは交流ができるような個の場面と集まりの場所の棲み分けや工夫 ・子どもの一時保育や預かりなど、子ども連れの親が利用しやすい工夫 ・館内カフェや飲食ができるスペース ・Wi-Fiの導入 ・携帯電話の利用スペース
3	ありめ 委員	<p>市民参加型の図書館デザインを導入することが重要だと考えます。市民からのアイデアや意見を取り入れ、コミュニティのニーズに合致した施設を構築することで、図書館がより身近で利用価値の高い場となると考えます。</p>
4	河崎 委員	<p>1.西宮にゆかりの作家や、作品の舞台等が西宮になっている図書を集めた西宮コーナーを作ってはどうか。</p> <p>2.可能な限り、既存施設の統廃合により、図書館を複合施設化してはどうか。（特に図書を持っている施設を統合することで、その一元管理が可能になると思う）</p> <p>3.伊丹市のことば蔵の様な愛称等呼び名を公募してはどうか。</p>
5	佐野 委員	—
6	浜口 委員	—
7	松山 委員	<p>各図書館の地域的な要因も考慮して、機能の充実を図ることが重要と考えます。</p>
8	八木 委員	—

【意見集約】施策研究テーマ「図書館について」

②（１）の実現に向けて、合理化していく中で考えられること（あれば）

No.	委員名	意見
1	一色 委員長	<p>現在ある基幹図書館にそれぞれ役割を特化して持たせる。例えば、北口図書館であれば子ども、若者に特化したもの（ユースのための集える場や子育てひろば的な子育て支援など）にするなど1つの図書館に様々な機能を集中させるのではなくゆとりを持った形で用途に合わせて使い分けができるようにする。</p> <p>生涯学習や市民協働などの視点で各方面が連携し市民交流センター、大学交流センターの機能を見直し図書館の一部に機能を集中させるなど図書館を拠点に市民同士のつながりを持たせる。</p> <p>書庫に関しては書庫機能のありかたを資料収集の利便性を最優先しつつ公文書館的な機能も複合することはできないか？また、駅前図書館での書庫機能のあり方は慎重に検討する必要がある。</p> <p>市内大学との連携により市民の必要とする専門書などを大学図書館から市内分館を含めた図書館に取り寄せて借りることができる仕組みを構築し市民のための図書の充実をはかる。</p> <p>西宮浜の事例のように市内の各学校図書室を地域に開放する</p>
2	牧 副委員長	—
3	ありめ 委員	市民とのコラボレーション、最新のテクノロジーを活用した環境、文化イベントや芸術活動を促進、環境への配慮など、これらのアプローチを組み合わせることで、市民にとって価値のある図書館になると考えます。
4	河崎 委員	市民サービスのより一層の向上には、指定管理制度の導入が不可欠と思う。
5	佐野 委員	—
6	浜口 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全ての図書館について、適正配置の見直し ・学校図書と新中央図書館の連携強化
7	松山 委員	—
8	八木 委員	—